

# Comparisons

友枝 望 Tomoeda Nozomi

2018年1月5日 | 金 — 1月28日 | 日

Gallery PARC

友枝 望(ともえだ・のぞみ/1977年・大阪生まれ)は、広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程単位取得修了後、2009~2010年にハンブルグ美術大学彫刻科、及び、時間ベースメディア科に在学。現在は広島を中心に活動しながら、2013年には個展「CLUSTER」(大阪府立江之子島創造文化芸術センター・大阪)、2015年に個展「アートいちほら 2015春 Alignment - 友枝望」(アートハウスあそはらの谷・千葉)、2016年には「8th resident artist」(SEOUL ART SPACE GEUMCHEON・韓国)、「Watten Tide - Contemporary art project in kulturregion Vadehavet」(BLåvandshuk・デンマーク)など、国内・外を問わず様々な空間での展示に取り組むなど、柔軟な活動を続けています。

『比較・対比による「相対関係」を模索する』として、これまで様々な素材・行為・場に応じたアプローチによる作品制作に取り組んでいる友枝は、まず素材や場の持つ性質や特性、歴史や背景、そこに生じる認識の振る舞いなどを細やかに観察・検証します。その上で、それらが含み持つ様々な要素を、類似性や相対性を手がかりとした配置によって顕在化させる作品を制作します。それらは友枝によって確定した「何か」として提示されるのではなく、多様な視点により不確定に揺らぐ「在り方」そのものへと注意を向けさせ、そこに多様な思考を促す時間と場を生じさせます。また、そのための方法として、友枝は「反復」と「ノーリング(knolling プリコラージュ・アーティスト/彫刻家のトム・サクスの手法に代表される分類・配置のメソッドの一種)の手法と類型学の融合」を視野に、「まとまりの構造から全体性や意味性を消失させることで、個々の固有性を顕在化させる」ため、表現手法としての「配置」を実践しています。

たとえば友枝の《Double series》は、購入時期の異なるIKEAの『POKALグラス』が、生産地の違いによりガラスの色に違いがあることへの気づきから作品へと展開したものです。ここでは「大量生産による複製品」として「同じ」であるはずの製品が、併置されることによって相対関係に置かれ、そこに個々の「違い」という固有性が顕在化します。大量生産による製品を「同じ」と認識している人にとっては、そこに「違い」を発見することになり、それぞれを「違う」と認識している人にとっては、それらが価値・規格のうえで「同じ」とされていることに違和感を覚えるのではないのでしょうか。

4階に展示されている《Transparency Sequence -Glass-》は、同じくガラスの色の違いに着目し、それを典型的に分類しながら配置したもので、透明なガラスに見えるささやかな色という要素が、集積と相対関係を与えられることで顕在化しています。

こうした方法による認識への揺さぶりは、ローライ(Rollei・ドイツ)社製のカメラを用いた2階展示作品《Comparison -Rollei35-》にも展開しています。1967年に発売されたドイツ製「ローライ35」は、当初はコンパクトでありながら高額なカメラとして注目されていましたが、その後に安価で高性能な日本製カメラが市場を席巻していくなかで、1970年代はじめには価格競争力の確保のためにシンガポールへと生産拠点を移すことになった経緯があります(その後、1981年にRolleiは倒産)。この事実に着目した友枝は、本作品にお

いてドイツ製とシンガポール製の「ローライ35」により、限りなく同様の被写体・構図で撮影したプリントを併置しています。

この作品では、「同じ(商品名)カメラである」ことに認識の焦点をあてた時、まずそれぞれのプリントの「違い」を探すことに視点が移りますが、手持ちで撮影され、時間的にも前後の関係を含むそれらは、やがて当たり前「違う」ものであることに気づきます。そして、全体の相対関係は保たれながらも、比較不能な個々の固有性へと視点は移り、いつしか私たちの認識は類似性と固有性との狭間を行き来しながら彷徨います。

3階展示作品《Alignment -Yashica electro35-》は、「ヤシカエレクトロ 35」(1966年発売の国産コンパクトカメラ)を分解し、それぞれの部品をノーリングの手法を用いて大きさや形、機能や関連性などに分類し、平面上に整列・配置したものです。カメラという機器において、それぞれの部品は機能上の必要性から形状が決定され、カメラの内部に構造として配置されているといえますが、友枝はそれぞれを機能から引き剥がすことで、それぞれの個性をあらわにしています。

2階展示作品《Color chart sequence -9% spectrum-》は、ふたつのカラーチャート(CMYKの配合により再現できる色の表)のうちひとつを90度に回転させて重ねて合成し、その濃度を9%に設定してカラー印刷したものと、それらをグレースケールへと変換して印刷した《Color chart sequence -Gray-》を併置したものです。ここには色彩によるカラー印刷と、色彩を含まない明暗だけで構成されたグレースケールでの表れかたの違いとともに、画面上に微かに現れる色調の帯や、モアレ(干渉縞)による線などを見出すことができます。また、4階展示作品《Spectrum》では、私たちが普段目にする消臭ビーズ(吸収性ポリマー)を素材に、透明な水の中に透過光によるスペクトラムを出現させています。

友枝は『素材や行為が作品として昇華されていく過程での物質性や身体性とともに、社会性や場所性を瞬時にとらえる「美術思考」を感覚的に鍛えあげる。その「もの」や「こと」の本来の意味や役割を再考し、それら差異により知覚と想像力をかき立てる起因を与えること』を目論みます。その作品は、いずれも私たちが経験や思い込みから『固定』してしまっている「もの」や「こと」への認識を、身近な既製品などを素材に異なる配置を与えることで緩やかに揺さぶり、目の前の「未知」なるもの・ことへの眼差しを私たちから引き出します。

ひとつの体系を成していたものを整列・配置させることで個々を知覚化させる「Alignment」、「同じ」であるはずの既製品を対にすることで個々の差異を視覚化する「Double」、同素材の物質を一つのルールにしたがって分類し並べる「Sequence」のシリーズなどの国内未発表作品に加え、新作「Spectrum」を組み込んで構成される本展では、「もの」や「こと」の在り方だけではなく、自身がどのような固定概念を持っているか、その意味付けがどこからやってきたのか、自分が何を焦点としているか、あるいは何を相対関係として見出しているのかなど、「答えを出すこと」ではなく「問いを立てること」へと思考を促されるのではないのでしょうか。

# Comparisons

友枝 望 Tomoeda Nozomi

2018年1月5日 | 金 — 1月28日 | 日

Gallery PARC

## statement

比較・対比による「相対関係」を探る  
上記を起点とし下記の表現手法を模索する

1. 反復
2. ノーリングの手法と類型学の融合
3. まとまりのある構造のなかでゲシュタルト崩壊による個々の固有性を認識させる

このことにより、素材や行為が作品として昇華されていく過程での物質性や身体性ととも、社会性や場所性を瞬時にとらえる「美術思考」を感覚的に鍛えあげる。その「もの」や「こと」の本来の意味や役割を再考し、それら差異により知覚と想像力をかき立てる起因を与えること。

友枝 望 [www.nozomitomoeda.net](http://www.nozomitomoeda.net)

## C.V.

- 1977年 大阪生まれ  
2001年 広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科 卒業  
2002年 ハノーファー専科大学美術科に交換留学  
2003年 広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程 修了  
2006年 広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程 単位修得退学  
2009-2010年 ハンブルグ美術大学彫刻科、及び時間ベースメディア科在籍

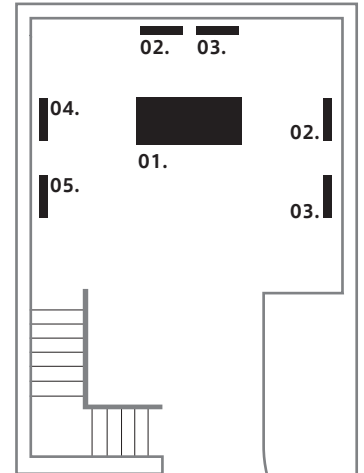
| おもな個展・グループ展・アートプロジェクト・AiR |

- 2016 8th resident artist (SEOUL ART SPACE GEUMCHEON / 韓国)  
- Watten Tide - Contemporary art project in kulturregion Vadehavet (BLåvandshuk / デンマーク)  
- 常設展 2016- 広島にゆかりある作家の作品展 |1| フェノメノン (ART GALLERY miyauchi / 広島)  
2015 個展:アートいちばら2015春Alignment - 友枝望 (アートハウスあそびらの谷 / 千葉)  
2014 中房総国際芸術祭 いちはらアートxミックス2014 (IAAES旧里見小学校 / 千葉)  
2013 almanac12- depositors meeting 11 (art & river bank / 東京)  
- 個展: CLUSTER (大阪府立江之子島創造文化芸術センター)  
- More Less (WCW Gallery / ハンブルグ、ドイツ)  
2011 salt sea sugar ship (ae GALERIE / ボツダム、ドイツ)  
- 個展: Entschuldigen Sie, dass ich Sie während Arbeit störe (Bürogemeinschaft Senefelderstraße / ベルリン、ドイツ)  
2010 広島アートプロジェクト 2010 (広島市中区吉島地区、広島市立大学資料館)  
- DOCKVILLE KUNST 2010: RECREATION (Reiherstieg Hauptdeich, Ecke Alte Schleuse / ハンブルグ、ドイツ)  
- We are the islands (Kunstraum Kreuzberg/Betanien / ベルリン、ドイツ)  
- almost the same, but not quite / 48 Stunden Neukölln (Rixdorfs / ベルリン、ドイツ)  
2009 STRANGE LOOP (GALERIE GENSCHER / ハンブルグ、ドイツ)  
- 広島アートプロジェクト2009 いざ! 船内探検「吉宝丸」展 (広島市中区吉島地区)  
- Jahresausstellung 2009 (Hochschule für bildende Künste Hamburg / ハンブルグ、ドイツ)  
2008 広島アートプロジェクト2008サテライト企画 Camp Berlinアーカイブ (広島市立大学芸術資料館)  
- キュレーション: 旧中芸術館開館記念特別展 イルハ・グランデ・愛・ (旧中芸術館 / 広島)  
- Camp Berlin (B.V.G halle / ベルリン)  
2007 旧工場アートプロジェクト 超高品質なホコリ展 (広島市中工場プラットホーム)  
2005 GIFT OF HIROSHIMA (Hochschule Bildende Kunst Braunschweig / ブランシュバイク、ドイツ)  
2004 個展 visits of invisible (広島市立大学芸術学部棟現代表現工房)  
2003 白市 DNA (東広島市白市地区)  
- HOPES 2003 (ふくやま美術館 / 福山)  
2002 ハノーバー - 広島 / 都市の中の動き (袋町市民交流プラザ / 広島)  
- Dasein (Kunstraum Zehn / ハノーバー、ドイツ)  
- 個展: X-ray / 友枝 望 (大和ラヂエーター viewing room / 広島)

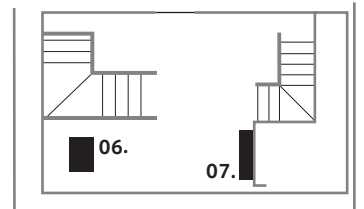
## works

- 2F-01.  
**Comparison**  
- **Rollei35** -  
2018  
2台のRollei35, 写真, 木材, アクリル板  
H890 W1810 D900
- 2F-02.  
**Color chart sequence**  
- **9% spectrum** -  
2018  
半光沢紙にプリント  
A1とA0サイズ
- 2F-03.  
**Color chart sequence**  
- **Gray** -  
2018  
半光沢紙にプリント  
A1とA0サイズ
- 2F-04.  
**Untitled**  
2005 / 2018  
アルミシール, アクリルガッシュ, MDF  
H490 W335mm
- 2F-05.  
**Double series**  
2009 / 2018  
2個のIkea POKALガラスとFÄRGRIKマグ  
カップ  
H550 W408 D150mm
- 3F-06.  
**Alignment**  
- **Yashica electro35** -  
2018  
Yashica electro35, 蛍光灯, 安定器, ケーブル  
H可変 W900 D600mm
- 3F-07.  
**Transparency Sequence**  
- **Glass** -  
2018  
ガラス瓶, ガラス板  
H260 W876 D240mm
- 4F-08.  
**Spectrum**  
2018  
吸収性ポリマー, 水, 水槽  
H360 W900 D300mm
- 4F-09.  
**Transparency Sequence**  
- **Glass** -  
2015 / 2018  
ガラス瓶  
サイズ可変, インスタレーション

2F



3F



4F

